

## 天声人語

行動できる「鈍感力」は、單なる鈍感とは違う。ベストセラー『鈍感力』の文庫版で、作家の渡辺淳一が書いている。例えば問題を起こしても平然としている政治家。「今までなく、こうした無神経で鈍感な男は、单なる鈍感でしかない」▼その定義によれば、彼らも単な訴された裁判で、安全に対する鈍さが目に付いた▼国の地震予測をもとにした15歳以上の津波予測が、2008年の時点で東電内にはあった。防潮堤工事も提案されたが、すぐ手を打とうとはしなかった。あくまで仮定にもとづく試算だったからという▼ことが起きていなし以上、すべては仮定のはずだが3人の認識は違うらしい。あるいは会社の利益を損なわないよう鈍感のふりをしたか。そんな無策ぶりが裁かれる判決が出るかと思いきや……全然違った▼3人が無罪になった理由は「事故前の法規制は、絶対的安全の確保を前提としてはいなかつた」というものだ。当局も専門家も電力会社も、原子力業界全体が安全に鈍感だったのでも3人だけを責められない。そんな理屈で責任者を消してしまった際は手品のようだ▼もつとも業界には敏感な人もいた。国の地震予測を考慮に入れ、津波対策をした電力事業者もあつたと裁判で証言された。3人の責任を問う根拠になりそうなのに判決では極めて軽く扱われている。裁判官に「敏感能力」が欲しい。

2019・9・22